

# Hem21

## NEWS

公益財団法人  
ひょうご震災記念21世紀研究機構  
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である  
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **26** 平成23年  
(2011) 3月

## CONTENTS

- ①～② 平成23年度事業計画  
平成23年度の研究テーマ
- ③ 今年度のひょうご講座、21世紀文明  
研究セミナーの開催結果について
- ④～⑦ 人と防災未来センターニュース  
MiRAi
- ⑧ 情報ひろば

## 平成23年度事業計画

### ① 基本方針

外部評価や兵庫県の行革方策を踏まえ、機構の中期計画を達成するため、「選択と集中」を進めるとともに、政策シンクタンクとして地域課題や政策課題について研究調査や事業に取り組むほか、研究交流、人材育成等の充実強化を推進します。

### ② 主な取り組み

#### (1) 自主調査研究事業

研究調査本部では、機構のミッションである「安全安心なまちづくり」と「共生社会の実現」の基本課題を研究テーマの視点として持ちつつ、県とも連携しながら、研究調査を推進します。重点研究課題としては、効率・利便性から安全安心を基本的価値とする社会の仕組みづくりを明らかにする「地域の安全安心」とともに、少子・高齢化社会の中で家族・家庭がその社会的機能を十分に果たし、社会がそれを支えられるような仕組みの構築を目指す「共生社会の構築」、さらに、わが国が国際平和協力国家として歩んでいくための「国際社会への貢献」を喫緊

の課題として、分野横断的・実践的な政策研究を推進し、21世紀の成熟社会を先導する政策提言に取り組みます。

#### (2) 学術交流事業

研究機関、学識者等兵庫にゆかりのある多彩な知的資源の蓄積を活用した講座の開催や留学生・研究者の交流に加え、シンポジウムの実施、情報誌の発行等多様な媒体により、高度で専門的な知識を求める県民や国内外の研究者等へ研究成果の発信・還元を行います。

#### (3) 人と防災未来センターの運営

阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、そこから学んだ教訓を未来に生かすことを通じて災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、減災社会の実現に貢献するため、実践的な防災研究、防災人材の育成、災害対応の現地支援等に取り組みます。

#### (4) こころのケアセンターの運営

トラウマ・PTSDなど「こころのケア」に関する研究や研修、相談、診療などを実施するとともに、いのちの尊厳と生きる喜びを高める「ヒューマンケア」の理念に基づく人材育成を行います。



# 平成23年度の研究テーマ

ひょうご震災記念21世紀研究機構では、研究調査本部と人と防災未来センター、こころのケアセンターの各研究部で研究調査活動を行っており、平成23年度は次の内容の研究に取り組みます。

## ① 研究調査本部

### (1) 地域の安全安心

- 多国間経済協力が兵庫経済に及ぼす影響と対応策
- グローバル化が進展する中でのひょうご経済のあり方

### (2) 共生社会の構築

- 結婚・出産・子育て支援のための家族福祉戦略
- 社会的安心確保のための財源と制度のあり方
- 参画と協働による社会形成の進展と今後の展開方策
- 人材の国際流動を踏まえた多文化共生の今後の展開

### (3) 国際社会への貢献

- 東アジアの災害対策協力のあり方

## ② 人と防災未来センター

### (重点研究領域)

- 災害初動時における人的・社会的対応の最適化
- 広域災害に向けた組織間連携方策の高度化
- 地域社会の復旧・復興戦略の構築

## ③ こころのケアセンター

- 災害、事故等、同時に一つの出来事に遭遇した集団を対象とするトラウマ・PTSDが与える影響およびその対応策の研究
- 災害、事故、犯罪被害者等、単発的な出来事に遭遇した個人を対象とするトラウマ・PTSDの治療法や対処法の研究
- 児童虐待、DV等、反復性のある出来事に遭遇した個人を対象とするトラウマ・PTSDの治療法や対処法の研究
- さまざまなストレスによって生ずる精神疾患の予防等の研究

## HAT神戸 掲示板

### 兵庫県立美術館

色彩革命!—モダン・アートはここから始まった。  
レンバツハハウス美術館所蔵  
カンディンスキーと青騎士

20世紀初頭、ロシア生まれの巨匠カンディンスキーは、仲間とともにグループ「青騎士」を結成し、モダン・アートの歴史に輝かしい足跡を残しました。ミュンヘン市立レンバツハハウス美術館が誇る世界屈指の青騎士コレクションから、約60点の作品を紹介します。

■会期=4月26日(火)~6月26日(日)

■観覧料=一般1,300(1,100)円、大学生900(700)円、高校生・65歳以上650(550)円、中学生以下無料

※( )内は前売りおよび20名以上の団体割引料金(高校生・65歳以上は前売りなし)

※前売券は4月25日まで販売します。会期中は前売券を販売いたしません。

※障害のある方とその介護の方1名は各当日料金の半額(65歳以上除く)

○休館日=月曜

○開館時間=10時~18時(金曜・土曜は20時まで)

※入場は閉館の30分前まで

TEL 078-262-0901 <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>



ヴァシリー・カンディンスキー「[コンジョジ ヨンVII]のための習作2」 1913年  
レンバツハハウス美術館蔵  
Städtische Galerie im Lenbachhaus  
und Kunstbau München

### JICA兵庫

◆国際協力連続セミナーin JICA兵庫(全7回)  
—共に考えよう!世界のためにできること—

「国際協力の現場で何が起きているか?」「JICAって一体どんなことをしているの?」国際協力の最前線で勤務経験のある講師が、現地での体験談を語ります。どなたでもお気軽にご参加ください。

■開催日程=4月27日(水)・5月11日(水)・5月18日(水)・5月25日(水)、6月1日(水)・6月8日(水)、7月20日(水)

■開催時間=18時30分から20時まで

※事前申し込み必要

◆食堂のご案内

JICA兵庫1階の食堂(カフェテリア方式)は、研修用員の食堂ですが、どなたでも利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子を6脚用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理(ドリンク付き700円)は、4月は人気投票1位の料理、5月は東ティモール料理です。

メニューの詳細と写真については、

こちら→ <http://www.jica.go.jp/hyogo/office/restaurant/index.html>

■営業時間=(昼)11時30分から14時まで (夜)17時30分から21時まで

※各終了30分前ラストオーダー

○申し込み・問い合わせ

JICA兵庫

TEL 078-261-0341(代表) FAX 078-261-0342

Eメール [jicahic-event@jica.go.jp](mailto:jicahic-event@jica.go.jp)

※各イベント情報は決定次第、ホームページなどにてお知らせしますので、ご確認ください。

<http://www.jica.go.jp/hyogo/index.html>

# 今年度のひょうご講座、 21世紀文明研究セミナーの開催結果について

兵庫県には大学や研究機関といった知の拠点が集積されています。学术交流センターでは、これら兵庫にゆかりのある知的資源を活用した高度な学習機会を提供することを目的に、「ひょうご講座」と「21世紀文明研究セミナー」を開催しました。

## 1. ひょうご講座

大学教養レベルの生涯学習講座として、平成22年度は兵庫県民会館（神戸市中央区）で春と秋に全20科目を開講。分野は「国際」「経済」「心のケア」「健康」「自然科学」「芸術」「歴史・文学」等。各科目ともに同一曜日に週1回、全8～12回の連続講義として実施しました。

ひょうご講座の特色でもある「独自科目」は、複数の大学や研究機関、実業界等からなる講師陣がシリーズで講義しました。

そのなかで今年度、最も受講者の人気が高かったのは、「21世紀の宇宙」。2010年は宇宙飛行士の野口聡一さんの宇宙ステーション滞在に始まり、小惑星探査機“はやぶさ”の帰還など、宇宙関連の話題も多く、講義では第一線で活躍する講師を前に質問が飛び交い、白熱した講義で受講生から好評を得ました。「上海万博と中国の経済社会」や「オバマ政権とアメリカの経済と社会」といった国際情勢の最新の話題を提供できるのもひょうご講座の魅力の一つです。

「仏と日本人」では近畿周辺の古代寺院に焦点を当てて、仏の魅力を研究者と共に探究。歴史分野では過

去最高の受講率となりました。

また、参加・体験型のプログラムである「オープンカレッジ」では、大学キャンパスで実習・演習を取り入れた講義を毎週土曜日に計5日間実施しました。

神戸大学コースのテーマは「心理テストを通じて知る『こころ』の不思議～自分の知らない意識と無意識」。講義では心理テストによる自分探しをする一方、グループワークを通じて参加者同士の繋がりも深まり、キャンパスライフを満喫いただきました。

受講者は、県内の老人大学や他の学習機関で勉強された方など、さらなる学力の向上を目指す方が多く、平均受講率は8割。受講生のアンケート結果では、8割以上の方が「満足」、「ほぼ満足」、また、約9割の方が今後も「是非参加したい」「できれば参加したい」と回答されました。

平成23年度は、秋期に開催予定（9月上旬～12月上旬）。詳細は、当機構ホームページや、ニュースレター等で公表します。

## 2. 21世紀文明研究セミナー

21世紀文明社会には、貧困や災害、環境変化、健康被害等さまざまな課題があり、これらを乗り越えて人類が平和に生活するための技術＝「平和の技術」が求められています。21世紀文明研究セミナーでは、安全安心なまちづくりや共生社会の実現など、阪神・淡路大震災が提示した近代文明の課題を取り上げ、HEM21をはじめHAT神戸に集積する国際・研究機関による知的ネットワーク（国際・人道支援協議会）資源等を活用しながら、課題解決に向けた方策を参加者と共に探索します。

主な参加者は高度で専門的な知識を求める研究者や、実践的な課題を抱える行政、NPO・コミュニティ関係者、県民等で、22年度は「安全安心」「共生社会」「防災」「環境」「芸術」分野からなる講座を、10月5日から3月4日にかけて計30回実施しました。

具体的には、安全安心では「安全安心研究の最前線」をテーマに経済、福祉、環境、危機管理、国際協力などの観点から6講座、共生社会では「健やかな長寿社会に向けて」をテーマに新しい公、医療、介護、就労

等について6講座、防災では「地震災害への対応」をテーマに歴史的建造物の保護、交通対策、災害医療、こころのケア、国際協力について6講座、環境では「地球温暖化への取り組み」をテーマに国際、国内、地域の各取り組みの紹介等について6講座、芸術は「美術館の役割」をテーマに美術品の収集（コレクション）について6講座行いました。

参加者は、分野に関係なくこれらの講座から関心のあるものだけを選び、HAT神戸等の研究者による発表を聴講できます。議論を深めるために教室をラウンドテーブル方式にし、講師によるプレゼンテーションの後に、参加者とのディスカッションを設けることにしています。これにより、参加者が課題解決に向けた手がかりを得るだけでなく、参加者の見解が発表者にフィードバックされることで発表者の研究にも寄与する点が期待できます。参加率は定員の約1.5倍で、アンケート結果では約8割から「有益であった」との回答をいただきました。来年度も同様の開催を予定しています。

## つながる世代：父の生き方 わたしの生き方

～災害メモリアルKOBÉ2011を開催～

1月8日午後、人と防災未来センターにおいて、「災害メモリアルKOBÉ2011」が開催されました。

災害メモリアルKOBÉは、次世代の育成、世代間交流による語り継ぎなどを通じて、市民の防災力を高めることを目的として開催しているもので、今年で6回目。今回は、「つながる世代：父の生き方 わたしの生き方」をテーマとして、開催しました。

前半の部は、小・中学生による作文発表。この行事に先立ち、神戸市内の2つの学校で行われた特別授業を受けた児童・生徒による感想文の朗読です。神戸市立渚中学校では、11月29日に2年生を対象に、震災当時、災害医療の現場で活躍した医師と現在医師になった息子を講師として、また、神戸市立池田小学校では、12月6日に3年生を対象に、震災復興のまちづくりに活躍した父とその背中を見て育ち、防災を志す大学生である息子を講師として迎え行われました。

児童・生徒の作文は、当時の大変な体験、人と人とのつながりや災害への備えの大切さなどを訴えた講師の語りをそれぞれの視点で受け止めていました。

後半の部のパネルディスカッションでは、特別授業の講師を務めた2組の“親子”にそれぞれの生き方を語っていただき、そこから垣間見える世代間のつながりに光を当て、“子は親の生き方から何を感じ、親は子の生き方から何

を思うのか”、そして、“世代のつながりを通して受け継がれていく震災の記憶・経験とは、どのようなものか”、を考える場をつくりだしました。

この他、2009年8月に大水害に見舞われた佐用町でボランティア活動を行う県立佐用高校生による報告、震災からの復興イベントにより活動を開始したスティールパノオーケストラFANTASTICSのスペシャルライブ、県立舞子高校生らによる耐震実験「ぶるる」の実演などのコーナーもあり、作文を発表した児童・生徒やその家族、学生、防災関係者、ボランティアなど約200人が、世代を超えた震災の語り継ぎの大切さについて深く思いをはせる機会となりました。



## 国際防災・人道支援フォーラム2011 減災シンポジウムを開催

1月13日、ホテルオークラ神戸において、「災害に強い都市の構築」をテーマに「国際防災・人道支援フォーラム2011／減災シンポジウム」が開催され、世界の都市部に人口が集中する現状を踏まえ、国内外の防災、行政関係者等が意見を交わしました。

基調講演では、まず、国連国際防災戦略事務局のヘレナ・モリン・バルデス次長が「世界各地で急激な都市化が進み、貧困層が多く住む都市部が防災上の大きなリスク要因になっており、賢い投資で安全な構築物を作ることが重要になっている」と訴えました。

続いて、河田恵昭・人と防災未来センター長が、「単に都市の人口が増えているのではなく、スラム人口が増加していることが問題」と指摘。「被災前から環境が悪化している地域で災害が発生すると、立ち直れない状況になる。都市での災害

対策は、住民を中心に考えることが大切である」と論じました。

その後、新潟県中越地震の復興を指揮した新潟県長岡市の森民夫市長らパネリスト4人が、都市の減災についてパネルディスカッションを行いました。

また、トークショーでは、女優で国連開発計画親善大使の紺野美沙子さんが2005年に大地震の被害に遭ったパキスタンの視察の状況について「心のケアなど、成果が数値化しにくい支援が後回しになっている」と語られました。



都市の減災をテーマにしたパネルディスカッション



紺野美沙子さんによるトークショー

## ひょうご安全の日 1.17のつどい

震災から16年になる1月17日、センターの慰霊のモニュメント前にて「ひょうご安全の日 1.17のつどい」が執り行われ、約2,000人が参加しました。

黙とうの後、井戸敏三知事が減災社会の実現に向け、大震災の経験と教訓を伝えていくことを強調しました。続いて県民代表として、新成人の長谷拓郎さんと米川沙羅さんが、教員を志願しており、次世代に教訓と復興の歩みを語り継ぐことを誓いました。

神戸市立なぎさ小学校児童による「しあわせ運べるように」の献唱、ひょうご安全の日推進県民会議企画委員長である河田センター長による「1.17ひょうご安全の日宣言」の朗読の後、参列者による献花が行われました。



「県民のこぼし」を読み上げる新成人

### 1・17ひょうご安全の日宣言

阪神・淡路大震災から16年が経った  
 私たちは日本と世界の多くの人たちに  
 地震の被害に遭う前に 震災の教訓を知ってもらいたい  
 生かしてもらいたいと願って 発信し続けてきた

昨年1月にハイチで大地震があった  
 人口250万人の首都ポルト・プランスなどで  
 22万人以上が犠牲になった  
 復旧・復興事業は難渋し 感染症も広がった

21世紀に入って 巨大災害の発生がとくに目立つ  
 犠牲者が1万人を超えた災害が この10年間で7回も起こった  
 毎年のように 世界中で多くの人たちが犠牲になっている  
 やはり 震災の教訓がまだまだ伝え 生かされていないのだ

チリ津波災害から50年を迎え またチリ沖地震津波が来襲した  
 幸い 人は亡くならなかったけれど水産施設に大きな被害が出た  
 日頃から津波に備えた対策がなかったことが原因だ  
 しかも 避難勧告や指示に従った人はたった3.8%にとどまった  
 50年前の教訓が伝え 生かされていないのだ

誰でも地震や風水害に遭遇する  
 私たちが持っている災害の教訓をもっと活用しよう  
 日々の生活の中でもっと備えよう  
 それを自分から 家庭から 学校から 職場から 地域から発信したい

伝えよう もっと伝えよう 阪神・淡路大震災の教訓を  
 備えよう もっと備えよう 減災社会を目指して  
 震災の教訓は すべての災害に通じる知恵だから

2011年1月17日  
 ひょうご安全の日推進県民会議

また、つどい会場であるHAT神戸はメモリアルウォークの終点となっており、南側に位置するなぎさ公園では防災啓発展示や防災訓練、ステージでのミニコンサート等が実施されました。

公園中央には炊き出しのブースが並び、うどん、甘酒、粕汁、いなりずし、カレー、おでん、ぜんざい等が振る舞われました。

センター「友の会」では、「いきいきネットワーク」との協働で炊き出し大会に参加しました。友の会メンバーは炊き出しブース内の「甘酒コーナー」の準備の後、「遊びコーナー」で、赤十字募金に協力いただいた方に「どんぐり人形」作りの説明、実演をするなどの活動を中心に行いました。

平日にもかかわらず、炊き出しは完売、どんぐり人形作りにも多くの方が参加するなど、炊き出し大会は盛況のうちに終わりました。



## 災害対策専門研修「トップフォーラム in 長崎」を開催

人と防災未来センターでは、地方自治体の首長を対象とした災害対策専門研修「トップフォーラム」を開催しています。

この研修は、最新の研究成果による知見等を基に、今後突発的に発生する大災害時に地方自治体のトップに求められる対応、リーダーシップなどについて、講義・演習を通じて学ぶものです。

トップフォーラムは、平成14年度から毎年開催していますが、22年度は、長野県、宮城県、兵庫県、長崎県の4県で開催し、共催県と協力しながら、カリキュラムの設計や研修の運営を行いました。

2月10日には、長崎県長崎市で今年度最後の「トップ

フォーラムin長崎」を開催しました。

最初に、今後大規模地震や風水害などが発生した場合に、住民に対する避難勧告・指示などの重要な責務を担う県下の市町長等に対して、河田センター長による「長崎県における自然災害とその対応」と題する講義、続いて、センター研究員等による「災害時の首長の行動と必要とされる役割」、「災害対応における広報のあり方」の講義を行いました。

次に、架空の市町で地震被害があったことを想定して、県内21市町すべての市町長等が活発にグループ討議を行い、災害対策本部長としての課題、方針決定や記者発表の手法等について実践的な演習を行いました。



河田センター長による「長崎県における自然災害とその対応」の講義



長崎県内の市町長等の参加による演習

## 災害対策専門研修「図上訓練を用いた災害対策本部運営・広報コース」を実施

人と防災未来センターでは、2月17日、18日の2日間、全国から自治体の防災・危機管理担当部局の職員を集めて、災害対策専門研修「図上訓練を用いた災害対策本部運営・広報コース」を実施しました。

このコースでは、「目標管理型の災害対応」の考え方にに基づき、災害対策本部における効率的な情報処理手法の習得と、3つの視点(①内外の状況について組織全体で共通の認識を持つこと、②目標を設定し、それを達成するため

に優先的に取り組む対応方針を決定すること、③能動的な広報)の重要性を認識することを目標としています。

2日間の研修の結果、「目標を設定し、共有してチームで動くことの大切さを学びました」「何のために、誰のために業務に当たるかという観点・視点を共有できるよう、端的に明確化することの重要性が認識させられた」といった声が寄せられる等、多くの研修員がそれぞれの“気づき”を得ることができたようです。



記者役の質問に答える広報班



現役メディア関係者による記者会見シミュレーション

資料室企画展

「戦後神戸の歩みと阪神・淡路大震災」を開催

1月12日から2月27日まで、人と防災未来センター5階資料室において、企画展「戦後神戸の歩みと阪神・淡路大震災」を開催しました。

この展示に当たっては、多くの個人や団体の協力を得て、敗戦直後から震災前までの写真やパネルを提供いただきました。それらと共に、センター所蔵の震災資料を展示し、戦後65年の神戸の歴史の中で、1995年の大震災をとらえ直すことをテーマとして開催しました。

1945年の神戸大空襲のパネルやその後の復興、高度成長期の写真によって、神戸の街が移り変わっていく様子、そこで生活する人々の面影、震災によって消えてしまった街の風景などを展示しました。

震災で廃墟と化した神戸の街は、高度成長期以降の

「開発」のもとで、港湾施設の拡充や「海上都市」としての発展を遂げ、“おしゃれでモダン”な都市イメージをつくり上げていきます。そ

の一方で、郊外のニュータウンが造成されるとともに、市街地の高齢化と空洞化が進んでいきました。震災発生前にすでに地域社会はさまざまな問題を抱え、人間関係の弱まりが進みました。大震災はそこを直撃し、社会に潜む諸問題をえぐり出しました。今回の展示では、そのことを来館者に知ってもらうことに主眼を置きました。

また、震災を契機として、人と人とのつながりの再生を目指す動きや、歴史を見つめ直すさまざまな市民活動が出てきたことも紹介しました。戦前から外国人が多く住んでいた神戸は、震災によって外国人問題がクローズアップされるとともに、「多文化共生」へ向けての新たな動きが広がりました。

展示を通して、地域社会の成り立ちの中で大震災を問う直すことの大切さを伝えました。



来館者の感想(アンケートより)

- ・「震災が地震だけの影響ではなく、それまでの世情が影響していることがわかりました。」(30代女性)
- ・「神戸の戦後史展示として非常に興味深く勉強になりました。それとともに、そうした歴史の中で95年の震災が発生したのだ、ということが印象深かったです。」(20代男性)
- ・「兵庫駅の昔の写真が印象的でした。震災後の、また綺麗になった駅をよく通っていたので。」(30代女性)
- ・「写真によって街の様子がよくわかり、具体的なイメージが持てるようになりました。展示スペースが“展示スペース”としてもう少しあったら、さらによかったと思いました。」(30代男性)

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

**開館時間** 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)  
 ※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)  
 ※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

**入館料金**

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※( )は20人以上の団体料金  
 ※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

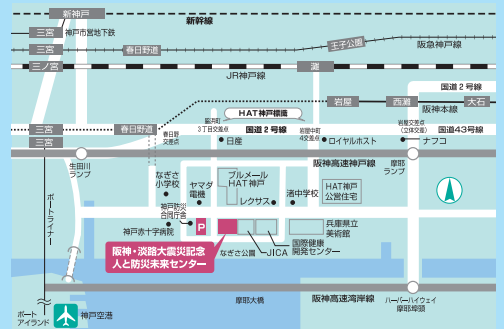
**休館日**

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日  
 ※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休  
 ※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

**交通**

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
  - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
  - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅から約15分
- 車**
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
  - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
  - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



# 情報ひろば

## 研究調査本部

### 〔公財〕ひょうご震災記念21世紀研究機構「ひょうご政策ビジョン研究フォーラム」

平成22年度の研究成果について、行政機関等における政策形成への活用と新たな政策課題の抽出を図るため、外部有識者、政策担当者、県民などの意見交換を行います。



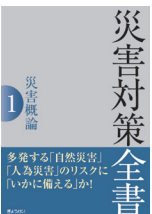
▶日時＝4月22日(金)10時30分～16時30分  
▶場所＝兵庫県民会館10階福の間  
神戸市中央区下山手通4-16-3  
(市営地下鉄県庁前下車すぐ)  
TEL 078-321-2131  
●申し込み・問い合わせ  
同機構 研究調査本部 調査部 調査課  
TEL 078-262-5570 FAX 078-262-5593  
Eメール research@dri.ne.jp

【開会】(10:30～)  
【第一部】(10:35～12:00)  
「安全安心なまちづくりを考えるフォーラム」  
・コーディネーター：林 敏彦 研究統括  
・パネラー： 穂原 雅人 主任研究員  
林 万平 研究員  
安藤 文暁 特別研究員

休 憩(12:00～13:00)  
【第二部】(13:00～15:00(質疑応答含む))  
特別講演「東アジアの安全保障と防災をめぐる国際協力」  
・講師：五百旗頭 真  
研究調査本部長(防衛大学校長)

休 憩(15:00～15:15)  
【第三部】(15:15～16:30)  
「長寿国にっぽん活性化を考えるフォーラム」  
・コーディネーター：野々山 久也 研究統括  
・パネラー：阿部 真大 主任研究員  
久保田 裕之 研究員

### 〔公財〕ひょうご震災記念21世紀研究機構編集・発行 「災害対策全書(全4巻)」が今春発刊



本書は、全国の研究者、専門家、行政の担当者、医師、文化人等234人が阪神・淡路大震災をはじめ内外で多発している各種災害をベースに災害発生時の応急対応策から復興対策、そして、今後に予想される巨大災害に備える防災・減災対策まで災害対策の各般にわたる実践的で総合的な手引書としてまとめたものです。

「災害概論編」「応急対応編」「復旧・復興編」「防災・減災編」の全4巻、1700ページ。A4判、上製本、通常定価は2万3,000円(税込み、送料別)ですが、5月31日までは、特別価格1万9,800円(税・送料込み)で予約申し込みを受け付けています。

災害発生時に行政や企業、地域が何をすべきか。災害と防災対策、危機管理を学ぶ総合テキストとして、ぜひご購入ください。

- 災害概論編  
災害概論／災害と復興の歴史／災害・防災関連法規／災害・防災関連組織／災害・防災関係研究所／世界と日本の「災害年表」
- 応急対応編  
災害発生時の初動対応／被災者、被災地の災害医療／応急復旧対策／被災者の救助、救援対策／生活、経済の緊急復旧
- 復旧・復興編

復興の理念と目標／分野別課題  
■防災・減災編  
総合的な防災対策を実現するために／防災戦略計画／一元的な危機対応システム／防災計画と復興計画／ライフラインとハードの防災・減災／地域防災力の向上／国宝、文化財等の防災・減災対策／地域防災計画等各種防災計画の改善・強化対策／国際・国内空港の防災・減災対策と危機管理／防災・減災投資の投資効果の研究

◎編集企画  
公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構  
「災害対策全書編集企画委員会」  
総括 貝原 俊民  
(ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長)  
代表 五百旗頭 真(同研究機構研究調査本部長)  
◎編集長  
河田 恵昭(関西大学社会安全学部長・教授)  
林 敏彦(同志社大学政策学部教授)  
室崎 益輝(関西学院大学復興制度研究所長・教授)  
計盛 哲夫  
(ひょうご震災記念21世紀研究機構主任研究員)

●申し込み・問い合わせ  
同機構 研究調査本部 調査部 調査課  
TEL 078-262-5570 FAX 078-262-5593  
Eメール research@dri.ne.jp

## Hem21NEWS vol.26

平成23年3月発行



### 〔公財〕ひょうご震災記念 21世紀研究機構

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2  
(人と防災未来センター)  
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

- 管理部  
TEL 078-262-5580  
FAX 078-262-5587
- 研究調査本部  
TEL 078-262-5570  
FAX 078-262-5593
- 人と防災未来センター  
TEL 078-262-5050  
FAX 078-262-5055
- 学術交流センター  
TEL 078-262-5713  
FAX 078-262-5122
- こころのケアセンター  
〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2  
TEL 078-200-3010  
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください



企画・デザイン・編集・制作・新聞印刷・商業印刷・出版印刷・新聞広告・雑誌広告・SP・イベント・IT事業

小説、自伝、詩集など  
あなたが書きになった原稿を  
ご予算に応じた自費出版プランで  
ご提案いたします。  
また、各企業の記念誌等の  
企画・プロデュースも  
いたしております。  
どうぞお気軽にご相談ください。

株式会社 神戸新聞総合印刷  
☎078-362-7180  
本社／〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-5-7  
<http://www.kobepn-printing.co.jp/>  
当社の印刷センターはISO14001の認証を取得しています。



印刷物の企画プロデュースから編集・印刷まで、ニーズに合わせてトータルに手がけます。